

■第10回神戸文学賞受賞作
連載小説〈3〉

おどろき海賊

塚田照夫 絵／辻 司

翌る日は、雨があがったが船造りの仕事場の足場が悪く、浜次たち職人ははやめに仕事をきりあげた。

浜次が帰ってみると、岩吉もさわも家にいなかった。

昨夜のきょうなので、浜次は胸騒ぎがした。岩吉の薄い蒲団は、敷きはなしであった。

浜次は勝手裏へ出てみた。しぜん鶏小屋の床下へ眼がいく。様子がへんだ。いつもとちがう。

簀の子の下は延はゆがんでいた。一方の隅が手前にはみ出ている。ま、新しい土があたりこぼれて、薙の縁から土が盛りあがってのぞいていた。

そこを掘ったことは、ひと目でわかった。浜次は動悸が速くなった。

唐人の金櫃を横領したことが役人に知れて二人とも連れていかれたかと、まず考えた。それにしても、浜次自身身の辺りが静か過ぎた。何があったのか。父親が異状なだけに、浜次の不安は募った。

あたりに眼を配った。露地脇の隣家は、高い明かり窓がこちらに向いているだけで、あとは板壁である。裏はちよつとした淡竹の藪で、筍がもう今年竹になっている。三軒長屋の隣りとは、裏庭の板塀で仕切られて、人眼に遠い場所なのは都合がよかった。

浜次は、鳥屋の床下から薙を引き出し、鋤を取ってき土に差した。土は軟かで浅かった。近々に掘って被せなおした土だとすぐにわかった。ひと鋤で、金櫃の堅い感触が刃先に来た。罪科が露われて、父親と女房が縄つきになったのなら、証拠の金櫃が残っているはずはない。その心配だけは確実に消えた。浜次は急いで土をはね除けた。

久しぶりに見る金箱だった。蓋を開けて見た。銀は、もとどおりいっぱい詰まっていた。なにか、ひと並びほど先に見たよりは減っている気がした。

気になりながら蓋を閉め、土を掛け、こんどは丁寧に薙を延べた。

考えてみれば、金箱があるのは当然だった。さわもいることだし、どう狂っても、岩吉が金箱を掘りだしてどこかへ移すとは考えられなかった。

(なんでもなかった。父つあんな金箱のちゃんとかあるかどうか、確かめたかったとたい)

それも、蓋をあけて中味を見ないでは気がすまなかったのだ。それは、掻きだした跡が残った土の量でもわかった。浜次は、父が哀れになった。

が、ちよつと待てよ金箱を掘り出したのが岩吉でなく、さわだったとしたらどうなる。そして、もし、岩吉がそれに気づいたとしたら……？

(こら非道かことになるぞ)

浜次は蒼白になった。

(さわの奴、どこに行つとるとか、パカタレが)

居ても起つてもいられなくて、浜次は、家のうちを行ったり来たりしながら、とにかく近所でも訊いてみようと戸口へ出た。

そこへ、浜郷の伊助が、息を切らして来た。伊助と顔が合ったとたんに、浜次は、何か大変なことが起こったと直感した。

「浜次、お父つアんが変かぞ」

肩で息をしながら伊助は言った。

「どこじや？」

「浜ンわが家ン舟じや。一刻ン余も舟ン艫に坐つて、何ンかブツブツいうちア沖ばかり見とる。あら、変かばい」

「そうな？——さわは？」

「主婦さん居らんぞ」

浜次は、それだけ聞くと、伊助に礼も言わずに馳けだした。普通ならば、「お父つアんが変」だと聞いたなら、どう変なのか訊きかえすところだが、浜次は、そこは跳び越している。

（ああ、やっぱり）

そう思いながら浜へ走った。

岩吉は、伊助が言ったとおりの、磯に引きあげた自分の舟の艫に胡坐をかいて、海を見ていた。

「何んばしよっとかの？」

浜次が近づくと、岩吉はゆっくり首をまわして、鈍い、白眼に赤味の浮いた眼を向けた。

浜次は、その眼を見ながら、

「そげんしとれば暑かるが。早く帰ろで」

と、そつと言った。

「浜次な？浜次アお経ば、知つとるな？」

岩吉は、あべこべに浜次に訊いた。

「お経？ナンミョウホウレンジイ、キョウウなら知つとるた
い」

「それお題目たい。法華じやろが。そんなら、ナミアミダ
ブツがよかぞ。おどんたちのごたる（ような）者ンでん、
極楽に連れていてくれら、すちゅうど」

（「おどんたちのごたる者ンでん」か。そやもんな。法
度破りの海賊のごたるもんやもんな、おどんたち）

浜次は、ちよつとシンミリした。

岩吉は、白いか鼠色なのか文目のはっきりしない布片れの、ザボンくらいの大きさの包みを胡坐のなかに抱えている。布片れは浜次に見憶えがあった。指さして、

「何ンな、そら？」

と、こんどは浜次が訊いた。

「これな？」

岩吉は包みをさすりながら、
「こらよかと（なんでもない）。さわに貰うた」
と言ひ、正面に瞳をもどした。眼は遠い海を見ていた。

「和島のような見ゆる。藁ン瀬も見ゆるぞ」

「ここから藁ン瀬の見ゆるわけアなかるもん」

浜次は、あわててあたりを見まわした。土坡の上の人家の軒下に三、四人集まって、何か話してはこちらを見ているが、そこまで岩吉のことばが聞こえる気づかいはいなかった。伊助が、こっちへ来るのが見えた。

「見ゆるぞ、ほら。よう見ゆるたい」

岩吉は指を上げて海の方を指差した。その指先は細かに震えていた。

「さわはどげんしたとな」

浜次は、不安を声にして聞いた。岩吉の返事をはつきり聞くのが恐ろしかった。

「さわな？」

岩吉は海へ向いたまま呟くように言った。

「さわはな、長崎鼻ン山崎道のな、椿ン樹の下に寝とる」

「寝とるテ、山崎でな？……父つアん、お前ア、さわ
ばどげんしたとな」

浜次は、脚を宙にして船縁に跳びつき、手を伸ばして
岩吉の股間の包みをつかんだ。さわっただけで、中身は
銀塊だとわかった。

岩吉は浜次の手を払いのけて、

「さわは寝てしすたもんな。寝てしもたけん、そいで
懷からこイば、貰うて来たたい」

股の包みをなんども叩き、

「さわはよう寝とった。早う行つて起こしてやらんと、

日の暮れてしもて帰られんことなるばい」と、抑揚のない声でボソボソと言った。

浜次は、舳じゅうの血が凍った。やにわに、宙吊りの舳のまま船縁を攀じのぼり、岩吉の包みをもぎ奪ると、舟板の端を少し持ち上げて活け簀へ投げこんだ。小さな水音がした。浜次にはほかの処置のしようが、急に思ひ浮かばなかった。

すでに七ツ（午後四時）をすぎている。まだ夏の終わりで、日は長いといつても、長崎鼻の山崎シ森までは、ここから一里半（六キロ）はある。

「どげんな？」

伊助が来て、浜次と岩吉を交互に見上げた。

浜次は、それには答えずに岩吉へ、

「お前アバカか、こん気狂いが」

と、仁王立ちに喚いて、伊助には、

「こげん気狂いは、ほつといてよかぞ」

言い言い舟を跳び降り、砂を蹴って走りだした。

その背中を横眼に見ながら、岩吉は、

「せつかくさわに貰うた物ンばのう——。ナムアマダブツ、ナムアマダブツ」

と、くりかえし唱えていた。

五

さわは、ほんとに長崎鼻の上ン山の、椿の古木の下で死んでいた。岩吉が言ったように、寝ているようなさりけない姿であった。襟首を締めあげられていた。

山崎というところは、名のとおり山の先で、そこからまっすぐに五島灘へ雪崩れ落ちている。山裾は、狭い砂州と、八幡瀬などの岩塊の瀬に縁どられていた。全山原生林に覆われ、松や杉やあここの樹にまじって、どうしか椿が多かった。

さわは、そのうちの一本の椿の根方に寝ていたのである。

山蛭がいた。猪や蛇も出た。男でも、一人では、昼で

さえ山越えをためらう場所である。

獣道ほどの、径とは言えない径が密林を縫って、むかし遠見番所のあった番所山へ向かい、山の麓の峠を下った下山部落がさわの出生地だった。

さわは、そこへ帰る、というより逃げるつもりだったのだらう。そして行きがけに、銀塊のいくらかを古布に包んで、盗み帰ろうとしたのではなかったか。

浜次は、さわがいじらしかった。可哀そうだと思った。それを、父親岩吉は、どうした順序でか知って追いかけて、追いついて、とうとう殺してしまっただ。そして、一本の椿の古木がさわの墓標になった。

浜次は、さわの脇にペタンと膝を折って坐りこみ、オイオイ声をあげて泣いた。

日は背後の山の端に隠れているので、灰汁色の闇が杜の樹々を塗り籠めはじめていた。時刻では、まだ残照の頃、おいでもないのだが、ここには木洩れ明かりさえ射さなかった。

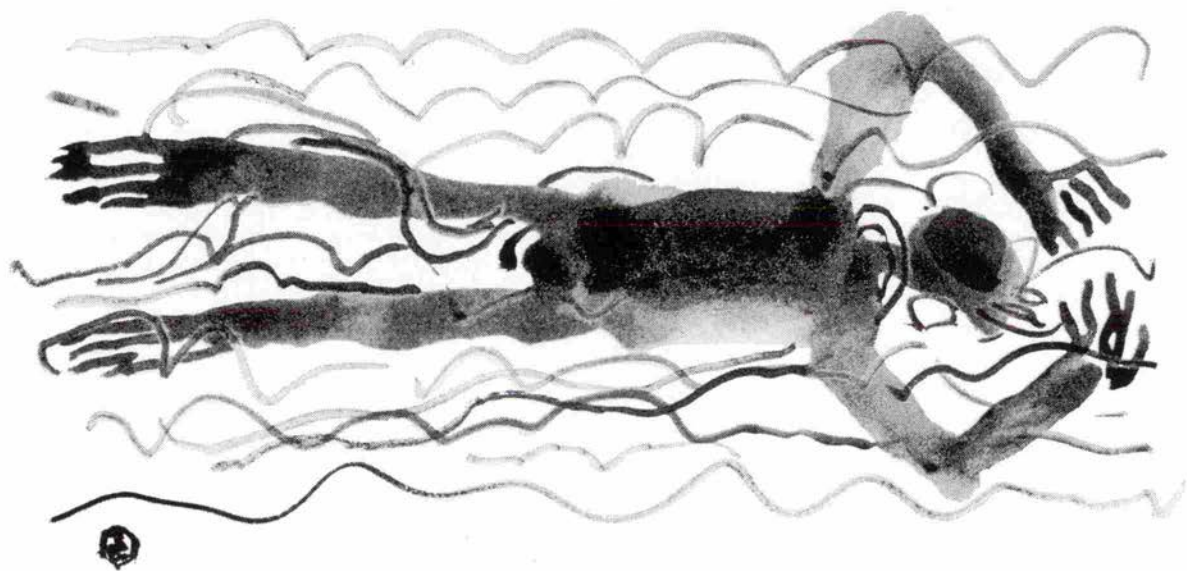
「三年奉公」で苦勞するより、その方がましじゃったとたいな、さわ。お父つアんな狂うとつじや。勘忍ぞ。勘忍ぞ、さわ」

浜次は、さわの半身を抱き起こして、泣き口説いた。

浜次が、さわに訴えている「三年奉公」というのは、この十年ばかり前から、五島藩に始まった独特の制度で、出戻りや、百姓・町人・漁師の次女以下の娘は、家中の武家に奴隸のように無報酬で働かされる定まりで、財政の苦しい藩の窮余の策だった。他藩にない暴政で「三年奉公」の女の入水自殺が絶えなかった。

さわが、夫浜次の家を逃げれば、出戻りになるわけだから、当然「三年奉公」の責めを負わなければならぬ。それでもさわは逃げたのである。

「そげん辛かったとな、さわ。そううちにア、ちゃんと話しばしもうテ思うとつたぞ。恐ろしかことじゃけん、さわは知らん方がよかテ思うたりしてな。そいでグズグズしとつたとい。済まんやつたな、さわ。そらア、



知ってン罪、知らんでン罪じゃけん、どうもならんばつてん、知らんで科^かは受くるよか、知つとった方が諦^{あきら}めんつくもんな。ばつてんさわは、知ったとたん、怖ろしゅうなつたとじやろ。おいどんなさわに隠しとるし、父っつアンは気の狂うてしまうし、さわは、どげんしようもなかったとたいな。そいで逃げた^{にげ}とたいな。逃げて、逃げて……、狂うた父っつアんに知れて、そして……」

浜次は、ようやく硬くなつていくさわの死体を揺さぶつて泣きつづけた。

さわは我慢ならなかったのだ。どのみち国禁を犯した大罪に連座する。としたら、どこか醒^さめたところのあるさわのことだ、「おそれながら」と申し出て、「三年奉公」の辛さだけでも免れようと決心したのか知れなかった。とにかくさわは切羽詰^{きりひぢ}まつた。あぐく、汚れた古布に包んだ少しばかりの銀を、証拠だか手土産だかにして、実家へ帰つて相談しようと思ひつたのだらう。どちらにしても、さわにえらべる道はなかった。それを、父っつアんな、追いかけて、つかまえて、そして殺して、銀の包みを取り返した。

「勘忍ぞ、さわ。勘忍な」

泣きじやくりながら浜次は、うしろ向きになつてさわの両腕を引っぱつて、山の傾斜を登つた。

径から少々外れたところでさわを寝かせ、胸で両手を合掌させた。さわの指は、堅くなつていた。

まわりの落ち葉や枯れ葉を手で掻いて、さわの冷たい軀を覆つた。そして、いつまでもその枯れ葉の山に顔を埋めて、肩を震わせていた。

西空の残照がすっかり消えて、とつぷり夜になつてから浜次は家に帰つた。

岩吉は帰つてなかった。浜次には、もうどうでもよかった。

「勝手にせえ」

岩吉の敷き放しの蒲団に膝を立てて坐つた。まるで腑

抜けている。灯も入れず、空腹もおぼえなかった。

「帰ったかの？」

向かいの女房のヨシが、腰高の表障子を開けて土間にはいつてきた。

「灯な、つとつければよからうに」

戸外にも誰かいるようだった。

「あのな」

遠慮がちにヨシが口を開きかけたとき、昼まの伊助が土間にはいつてきた。戸外の者と何か話し合っていたようだ。ヨシのあとを引き取って言った。

「あれからな、親父どん、ひとりで舟を出しよってな。

おどんたちの知らんうちにじゃ。ちょうど上げ、じやったけん、舟の浮いとつたもんな。気のついたら、浜におらんやつたたい。舟だけ流れたとじゃなからうかテ思うて、ここまで知らせに來たとばってん、だアれもおらんやつたたい。そいで……」

「そんな」

浜次は氣のない返事をした。

「こいじゃ暗うして話の見えんたい」

ヨシが勝手に上がりこんで、燈石に三角の火打ち鋼を打ちつけ、煤けた行燈に灯を入れて、

「さわどんなどげんしたとな」

と浜次に訊いた。

「アア？ああ、下山にいつとき帰るちゆうて」

里帰りしたと、浜次はごまかした。

「そんな、そうじゃろな。父つアのお守りで、さわどんもきつかったけん」

ヨシは律義に、また土間へ降りた。

伊助が、それを待っていたように、

「いまからじゃどげんもならんけん、あしたン朝早うみんなで捜しに出ようて相談しよりたい。どげんな？」と浜次と言った。

「ああ、すまん。しょんなか親父じゃ」

言いながら浜次は、岩吉の行ったさきに見当がついて

きた。和島の藁ン瀬だ。まちがいないと思った。

しかし、月はあるにせよ、集魚の簾の用意もなしには、夜の海は危い。昼間のまま、岩吉は家へ帰ってないのがある。

（面倒ばっかし、ようつぎつぎにあるのう）

浜次は、考える力が失せていきそうだった。

翌朝早く、東が水色に明かるむころ、岩吉捜しに加勢してくれる浜の者が、十人ほども集まった。浜次は、その一人ひとりに「すまんこっで」「どうもな」と頭を下げてまわった。

六艘の漁船に分乗して、多郎島と和島のあいだの海を見当に漕ぎだした。浜次は、伊助の舟に乗せてもらった。乗るとすぐ浜次は、

「藁ン瀬におどんば揚げてくれんな」

と、伊助に言った。

「あてのあるとな」

「ああ」とだけ浜次は答えた。

海はべた風ぎである。湊を出ると、多郎島が手前から沖へ長く、その左に少し遠く和島がある。舟の半分は多郎島の近くへ散っていった。伊助は、まっすぐに和島へ舳を向けた。近くにいた一ぱいが、手を挙げて合図をし、和島の裏へ向かった。和島を周ってみるのである。

伊助と浜次で漕いで、藁ン瀬の岩の露頭に舟を寄せた。潮は干いている。

浜次には憶えがある。二月ほど前に來たあの場所だ。舟の舳は伊助にまかせて、浜次は岩へ飛び移った。

前のときとおなじに、浜次は、四つ逼いになったり、よろめいたりしながら岩の高みに登った。登りつくと、かつての、洞門になった岩間の淵を覗いた。

岩吉は、やはりそこにいた。

岩狭では、海がゆっくり左右に揺れていた。岩吉は、両脚を松葉の形に伸ばし、両腕は川蝦の肢のように頭上に挙げてうつむきに浮き、波の動きに合わせて動いていた。浜次の記憶にいまも鮮烈に焼きついていて、あの突

き出た海中の岩の上であった。

(居らん。唐人どんのおらん)

浜次は測の底に瞳を凝らした。海は底まではつきりと見えた。唐人の姿はなかった。

しかし、それは当然であった。浜次が最後の唐人を見たのは、ふた月も前のことである。唐人の屍骸は、すぐに草履虫に喰われ、魚貝に突つかれたり吸われたりして糜爛し、白骨になって四散していても不思議はない。浜次は、そこまで考えが及ばない。あのときの、あのままの唐人を海中にさがしているのである。そして――

(居らん)

浜次は呆然となり、脚の力が脱けて、そこへ坐りこんだ。

(唐人どんな、どげんしたとな)

何かのはずみで縄がほどけて、生きのびたのではない。すると、夜ごと家へやってきて岩吉を怯えさせ、狂わせたのは、あれは本物の唐人だったか知れぬ。浜次の上下の歯が、口のなかでカチカチ鳴った。

「こらいかんばい」

浜次の頭越しに伊助が首を伸ばし、洞の洄に浮いた岩吉を覗きこんで言った。

「ありやツ、あら白蛇じやなかな」

伊助のいうとおり、うつ伏せに浮いた岩吉の腹の下から、白蛇がゆらめきのぼって、その端が岩吉の首に捲きついてた。それは、白蛇にもまごう一本のマニラ・ロープであった。

マニラ・ロープの持つ意味は、岩吉の死んだいま浜次しか知らない。白いマニラ・ロープの蛇に気がつく、と、浜次は、突然岩塊を拳で叩き、喉を破るような声をあげた。

「もうよかろうが、唐人どん。もうよかろが、あ、あ、あ――」

浜次は狂ったように泣き、喚き、首を振り、握り拳でいつまでも荒あらしい岩の塊りを殴りつづけた。手の甲

は破れて真っ赤になり、血があたりに飛び散った。伊助はギョツとなり、あわてて浜次にむしやぶりついていた。

「浜次、やめんか。どげんしよんなろが。浜次、やめろ。なんな、そん唐人どんちゅうとは？唐人どんのどげんしたとな。やめろ、浜次、やめんか」

助っ人を求めて、伊助は瞳をあげた。和島の裏へ回った一艘の伴舟が、二艘になって和島の鼻へ現われた。漕ぎ手は一人ずつになっている。流れていた岩吉の捨て舟を発見してつれてきたのだ。

伊助は、そっちへ手を振って、こっちへ来いと合図した。

「唐人どん、もう勘忍してよかろが。な、唐人どんよお」
浜次は、謔言のように繰りかえしている。手首から先は、すっかり血の塊である。それでも浜次は、血だらけの手を合わせて、眼に見えぬ唐人へ哀訴しつづけた。

六

岩吉の弔いは、浜と職人郷の人たちですませた。

浜次は、ヨモギの葉を潰して腫れあがった両手の疵に押しつけ、ボロ布れで捲いていて、手がつかえなかった。そのせいかかりでなく、すっかり空虚でしまって、なんの役にもたたなかった。

「下山ンさわどんな呼ばんでンよかとの？」

向かいのヨシが案じて訊くのだが、浜次は、
「よかろ」

と、何かとり落としたように言い、
「葬レン(葬式)のすんだら、下山に行こ思うとるけん」と、つけ加えた。

(続く)



筆者紹介

大正6年生れ。日本大学芸術学部卒。中華映画、教員、市会議員、予備校校長を経て現在「雨蚤海流」代表同人。長崎市在住。

彩の吹き寄せ——秋の味覚



京料理
あらび屋

■ 芦屋店

芦屋 打出小槌町30

TEL (0797) 23・5666
営業時間 午前11時～午後10時(駐車場有り)

京都本店 京都・山科区小山中島町28

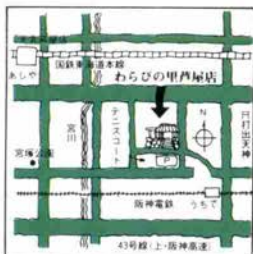
TEL (075) 591・0911

新宿店 東京・新宿区西新宿2の4の1F

TEL (03) 349・8789

京懐石 5,000円より

松花堂 3,500円(午後2時迄)

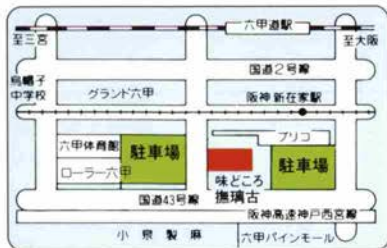


「食べて健康をつくる」

美味の散歩道



古来より珍重されて来たスッポン。我が国では、登呂遺跡から食物としてスッポンが出土し、西鶴の「好色一代男」にもスッポンの話が出ています。スッポンは滋養、強壮に良いといわれ、増血に効果があります。また、良質のタンパク質やアミノ酸が豊富で、脂肪もコレステロールが少ないといわれている不飽和脂肪酸を持っています。中国では「医食同源」として、スッポンを信奉し、宮廷に多く食され、その食生活史は五千年にも及んでいます。



味どころ 撫 璃 古

神戸市灘区新在家北町1丁目1番
TEL(078)841-9555

營業時間 / 午前11時30分～午後10時

- 午後2時から5時までは、喫茶だけでもご利用いただけます。
- 仕出し・ご宴会のご予約も受け賜ります。

神戸のうまいもとドリンキング

★日本料理

讃岐名代うどん **あこや亭**
市引店 ☎331-6300 三宮店 ☎332-3003 住吉店 ☎453-3737
兵庫駅前店 ☎575-5306 ポーアイ店 ☎303-1188
ポーアイプラザ店 ☎303-3232

北海道郷土料理 **夷**
中央区中山手通1-4-13
東門路東門会館ビル1階 ☎331-7770

和食 **くれない**
三宮生田新道浜中央KCBビル2F ☎331-0494

料亭 **布引大しん**
中央区熊内町4-8-19 ☎221-1945

なご焼 **たちばな**
三宮センター街(旧御蔭) ☎331-0572

民芸酒食処 **五事**
炭焼ステーキ
元町3丁目山側 ☎391-3156

炭焼やきとり **トリドリ**
中央区北長狭通2-5-1
タイシンサンセットビル2F ☎391-3028

そば **木曾路**
手打もうぎ
フラワーロード市役所前KEビルB1F ☎231-1295

どじょう **吾作**
中央区元町通2-7-20 ☎321-0539

鯛しゃぶ **三十三間堂**
神戸ワシントンホテル2F ☎331-6111

割烹 **銀座**
神戸ワシントンホテル2F ☎331-6111

手打そば **つる庵**
市役所花時計北・ハニービルB1 ☎331-0260

季節茶屋 **一輪房**
中央区三宮町1-8-1
さんプラザB1F ☎331-2280

天ぷら **天ふじ**
中央区下山手通2-11-24
大金ビル1F ☎392-3630

SAKE & **喜兵衛**
KAISEKI
中央区山本通2-1-1
コーナハウス2階 ☎242-5411

懐石料理 **馳走**
中央区山本通4-26 ☎222-6022

蟹 **土料理**
千石船
さんちか店 ☎391-4875 山手店 ☎391-9314

活伊勢海老料理 **中納言**
神戸プラザホテル ☎331-7918 元町東店 ☎392-1685

懐石料理 **楽珍**
阪急西口店/阪急三宮西口北レインプラザ3-4F ☎321-5200
家・会・場/神戸三宮生田新道 西村ビル3-4F ☎332-1717

焼料理 **青柳**
中央区元町通3-63 ☎331-2292

★各国料理

レストラン **やまと**
中央区生田町1-4-20 ☎242-20200

レストラン **皮くあらかわ**
中央区中山手通2-15-8 ☎221-8547・231-3315

ステーキハウス **グリル青山**
中央区下山手通2-14-5(トアロード) ☎391-4858

スカンディナヴィ料理 **ゴックスタッド**
と世界の民族音楽の店
中央区山本通3-1-2 回教寺院前 ☎242-0131

ステーキラウンジ **果林**
神戸プラザホテル2F(元町駅南) ☎331-4558

すていきハウス **長崎**
神戸市中央区布引町2-3-16 ☎221-1086

レストラン **花扇**
中央区元町通1-3-6 LBビル2F ☎331-8911

メキシコ料理 **ティファナ**
中央区中山手通1-21-13
パールコーポラスビル1F ☎242-0043

フランス料理 **ピストロドゥリオン**
中央区山本通2-13-6 ☎241-2727

レストラン **麻布キャンティ**
中央区北野町4-1-12 異人館倶楽部 ☎222-5380

ポリネシア料理 **フィッシャー・マンズ・ポート**
海・炭焼
神戸港第4突堤ポートターミナル ☎331-0301

シーフードバー **ムーニークルーズ**
三宮・生田路 ☎331-8980

喫茶・レストラン **カフェパウリスタ**
三宮・トアロード(パウルスタビル1) ☎391-0061

ステーキハウス **れんが亭**
中央区下山手通2-5-5 ☎331-7168

BARBECUE & STEAK **六段**
中央区元町通3-8-4 ☎331-2108

フランス料理と神戸ビーフ **レストランフック**
中央区山本通3-1-1
フランス風中庭併設 ☎321-3207・332-4129

フランス料理 **グラシア**
北野異人館通りローズガーデン山側 ☎242-0597

ドイツレストラン **ハイデルベルグ**
中央区山本通2-8-15
ローズガーデン2F ☎222-1424

ドイツワイン・コーヒー・デザート **ローテ・ローゼ**
中央区北野町4-9-14 ☎222-3200

韓国宮中料理 **鳳仙**
中央区北長狭通1-6-10 ニューキャスビル6F ☎391-2147

スペイン料理 **エル・ソル**
神戸市役所前・フラワーロードビル1F 東側 ☎232-3636

シルクロード料理 **ぶはら**
スライズレストラン
三宮町2-3-9 テキビル2F ☎331-1734

神戸市役所前店 **和黒くわくく**
三田通通海通西側
中央区中山手通1-24-1 ☎222-0678
指定店
ビルサイドテラス1F

スコッチ & ローストビーフ **ガスライト**
神戸ワシントンホテル9F ☎331-6111

フラメンコ & スペイン料理 **エル・パンチョ・キタノ**
中央区北野町3-2-4
アールド・マンション1F ☎241-1344

中国料理 **萬壽殿**
中央区中山手2-20-4 ☎231-4531

フランス料理 **ルー・サロメ**
中央区中山手通2-3-7
第2六門亭ビル1F ☎392-1251

北イタリア料理 **ベルゲン**
中央区山本通2-3-2 ☎241-6952

SAPPORO BEER RESTAURANT **ニュー・ムンヘン**
三宮生田ロード ☎391-3656

ステーキハウス **伊藤**
中央区御幸通7-1-20 大信ビル8F ☎232-3631

炭焼ステーキ **GOONY KITANO(グーニ)**
フランス料理
中央区北野町4丁目 ☎242-2562

神戸風レストラン **能芭亭**
中央区北野町2丁目1-10 ☎291-0661

フランス料理 **シャンテクレール**
三宮・ミナトホテル4F ☎232-1682

フランス料理 **トゥール・ドール**
中央区諏訪山公園展望台 ☎241-0168

ステーキ & ドリックス **神戸館**
中央区下山手通2-2-9
アパビル1F ☎321-2955

広東料理 **神戸元町別館牡丹園**
元町通1丁目協和銀行北側小路西入る ☎331-5790・6611

レストラン **ラ・ターブル**
中央区山本通3丁目3番8号(パウルビルB1) ☎241-3170

海老料理 **伊勢エビ屋**
中央区北野町4-6-8 ☎222-0766

★喫茶

珈琲館 **たちばな**
中央区元町通3-9-2 ☎391-1051

サロン・ティ **カレット**
元町一番街 ☎321-1739

カフェ **ラセール**
新聞会館1F ☎221-8155

喫茶 **ガーデニア**
中央区東町113-1 大神ビル1F ☎321-5114

喫茶 **ガーデニア**
中央区三宮町3-8 大和ビル ☎392-4004

LE CAFE **ガレ**
中央区山本通2-3-14 ☎242-7144

宮水のコーヒー **にしむら珈琲店**
中山手店・中央区中山手通1-26-3
☎221-1872・231-9524

三宮店・国鉄三宮駅山側 ☎241-2777
センター街・中央区三宮町10-27 ☎391-0669
北野店・山本通2-1-20 ☎242-2467
(金員製)3F事務所 ☎242-1880
阪急・三宮東口側 ☎332-5727

珈琲 **モーツアルト**
中央区山本通2-6-11
グランドマンション1F ☎241-3961

珈琲 **ん**
中央区三宮町2-9-6(トアロード) ☎391-1589

喫茶 **英屋**
神戸国際会館西側 ☎251-4562

喫茶 **葡萄屋**
三宮センター街3丁目 ☎391-9006

喫茶 **仏蘭西屋**
三宮・フラワーロード(神戸市役所前) ☎232-4643

デザート喫茶 **ぶどうの木**
三宮・フラワーロード(神戸市役所前) ☎251-3231

ウィーン菓子 **モーツアルト三宮**
中央区北長狭通8-1-29
カサパビル1F ☎251-3616

ウィーン菓子 **モーツアルト元町**
中央区三宮町3-1-3 ☎332-0886
神戸大丸山向い

茶房 **ナイ**
中央区下山手通6丁目2-7 ☎341-7376

喫茶 **モンブラン**
フラワーロード市役所前KEビル1F ☎231-3605

コーヒーラウンジ **カフェ・ド・パリ**
神戸ワシントンホテル2F ☎331-6111

TEA ROOM & LITTLE SHOP **ファミリア北野坂ハウス**
中央区北野町2-8 ☎222-3535

純喫茶 **元町サントス**
中央区元町通2-3-12(元町通1番街浜側) ☎331-1079

コーヒーラウンジ **City of City**
中央区三宮町3-9-1 ☎331-1117

ティ&スナック **エボック**
中央区元町通3-8-8(浜側) ☎331-3694

喫茶 **テルミーニ**
中央区国鉄元町駅構内 ☎332-1682

炭火焼煎珈琲 **珈琲倶楽部**
神戸市中央区北長狭通1-10-6(生田路)
ムーンライトビル1F ☎332-2016

炭火焼煎珈琲 **萩原珈琲店**
神戸市中央区中山手通2-21-3
☎222-1457

Salon & Cafe **BLUE MOUNTAIN**
神戸市灘区八幡町4-6-16
(阪急六甲駅下車南口西側約3分)

TEA LOUNGE **T/O/A**
神戸市中央区下山手通3-1-15
☎331-4412

ブルーショップ **ベニマン**
ブルーバー
神戸市中央区北長狭通4丁目3番24号 ☎331-8584

★CLUB

c l u b **飛鳥**
中央区中山手通1-2-6 ☎331-7627

c l u b **小万**
中央区東門前中島ビル3F ☎391-0638・4386

Member's Lounge **異人坂**
中央区北野町2-9-22(三本松不動北) ☎222-2001

c l u b **さち**
中央区下山手通2-17-13 ☎331-7120

クラブ **千**
中央区下山手通2-12-6 ☎391-1077

c l u b **なぎさ**
中央区北長狭通2-11-2 ☎331-8626

クラブ **るふらん**
中央区中山手通1-3-1 ☎331-2854

c l u b **Moon Light**
三宮・生田路 Club ☎331-0157 / Bar ☎331-9554

c l u b **コトブキ**
中央区三宮本通り ☎331-1875

★STAND & SNACK

スナック **CÉLINE**
中央区北長狭通2-5-1 タイシンサンセットビル5F
☎332-6020

レストラン **薔薇屋**
中央区北長狭通5-3-22 ☎351-4311

サロ **シアルパトロス**
中央区中山手通1-22-10
大和ナイトクラブ2F ☎231-3300

ブチヤンソン **音楽の家**
エトワ
中央区三宮町3-8-12 ☎332-1755
神戸トラード三宮センター街西入11スライト・アールビル3F

スナック **雅子**
神戸市中央区北長狭通1-5-9 KCBビル3F ☎332-0051

Theater pub **トム・キャンティ**
中央区下山手通2-8-2
神戸ワシントンビル1F ☎331-2122

スタンド **グラムール**
生田路岸ビル地階 ☎331-4637

サロ **神戸時代**
中央区中山手通1-23-10
モンシタウコトアビル ☎242-3567

カナルラウンジ **サヴォイ**
高麗山側 テキの店北 ☎331-2615

ミュージック **サントノール**
ウー
トラード街・中央区下山手通2-5-6
北野店 中央区中山手通1-22-10 大和ナイトクラブ6F ☎221-3886

スタンド **千里**
中央区下山手通2-11-1 ☎331-4730
K. S. Mビル1F

素舌 **洞でっさん**
中央区北長狭通1-5-12 ☎331-6778

STAND **マッシュケナダ**
中央区中山手通1-4-6 ☎331-5587
ユーベルビル4F

Adult Disco **セキーナ**
中央区加納町4丁目7-11 北野坂ビル8F ☎332-0666

求光夫の **ティファニー**
ミュージックサロン
中央区中山手通1-21-13 ☎241-1771

Wine and **珍地理屋**
Something
中央区中山手通1-22-10
大和ナイトクラブ1F ☎242-0288

レジャービル **西村ビル**
中央区北長狭通2-12-10(生田路) スーパー・ステーション
ランダムハウス45rpm 虎造坊 楽珍 エスカイクラブ

スタンド **かてな**
中央区中山手通1-7-10 英健ビル1F ☎331-1316

スナック **アダルト**
中央区北長狭通1-20-2 笹原ビル5F ☎321-5885

CAFE RESTAURANT & BAR **MARLENE**
中央区北長狭通1-2-13 ニューリッチビル5F
☎331-9050

らうん **沢村**
中央区中山手通1-4-10 平和楼ビル3F
☎332-2695

PRIVATE **コートダジュール**
SALOON
中央区中山手通1-22-113 ヒルサイドテラス4F
☎222-7222

会館側通新サロ **サロン・ド・神戸**
中央区北長狭通1-2-13 ニューリッチビル10F
☎331-1547

★KOBE PLAY GUIDE MAP



美味一品



⑥

チヨシ クァン チヤウ ガウ ヨク

おすすめ一品 松菌炒牛肉

(松茸と牛肉の炒めもの)



田邊芳美さん〈ザ・タナベカンパニー 取締役 田邊篤二郎氏夫人〉

「亡父がこの店のファンで私も小学生の頃からよく伺ってました。結婚後しばらくは子育て等で外食の機会も少なかったのですが、近頃は友人家族と一緒にグループでよく食へに来ています。今は主人の方が会社関係の方々としょっちゅう伺っているみたい(笑)」
王夫人の顔を見るとホッとするという田邊夫人は蟹、蝦、貝類が殊に好物とか。今日は香り高い旬の松茸の一品をお勧めです。

当店は本店も支店もございません！

広島料理 神戸元町別館牡丹園

元町通 1 丁目協和銀行北側小路西へ入る
☎331-5790・6611 11AM~8:30PM 第2、3水曜休(但し、12月は無休)

好物のミル貝とフカヒレスープを前にした田邊さん

・トム・キャンティ 23
周年記念

華麗なる ビューティナイト



瀬戸内美八

10月22日〈水〉

★ショータイム／

- 1部 ディナータイム PM6:00 ￥10,000
(テーブルの御予約はお早めに(078)331-2122 担当 榊、小松)
- 2部 フリードリンク PM8:30 ￥5,000
オードブル付

芸術の秋。

トム・キャンティ23周年記念の秋のプログラムは元タカラヅカのトップスターとして活躍されたルミちゃんこと瀬戸内美八さんを迎えてパンチのきいたショーを企画いたしました。今回はディナーショーです。ごゆっくりお楽しみ下さい。



トム・キャンティ

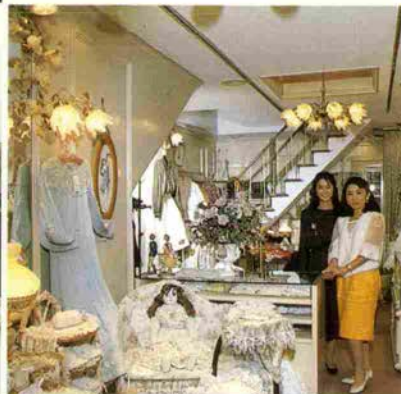
神戸市中央区下山手通2丁目11-5
神戸ワシントンホテル1F
〈年中無休〉TEL (078)331-2122



榊晴夫

〈題字 / 望月美佐〉

K O B Eらしいオリジナルがここに！ いいファッションとの出会い S & H グループ



このアトリエからS & Hが生まれる(左上)素敵なランジェリーも揃うプレジール・ミア(右上)風格ある品揃えのブティック・ミア(下右)センスあふれるアルタモダS & H(下中)トータルにコーディネートできるミア・ドウ(下左)

秋冬のファッションシーズンに入って、神戸の街を歩いてみるとさりげない感性が光る高級ブレッタS & Hのプレートがあちこちで眼をひいた。

さっそく北野町界隈は、中山手2丁目、フロインドリーブ前の佐々木ビル三階にある有有限会社S & Hを訪れた。紺地の白いテラーカラーとタイトなシルエツトが神戸らしい。「いい素材で、シンプルなデザインと色彩感覚が特色かしら」。創っている私たちが着てみたくなる服」とスタッフ。最初に「S & H」をウインドーに見つけたのは北野坂の「ブティック・ミア」。ヨーロッパコレクションの風格ある品揃えの中に、十七色のシルクブラウスは「S & H」とてもおしやれでアダルトだ。

向いにある白い館「プレジール・ミア」は小物やアングラーウェアが、観光客の人気を集め「S & H」の巻きスカートやブラウス、ワンピースが楽しい。

次は異人館通りのクラタ11号館一階にある「ミア・ドウ」トータルな品揃えは個性的。口伝えで「S & H」が確実にファンを獲ていた。最後は生田筋の「アルタモダS & H」。ジーンズ地の紅いワンピースがおしゃれ。ブラウスやスカートの単品もセンスがいい。「着てみたくなる」ハイクオリティな神戸発の「S & H」に注目！

Pブティック・ミア 中山手1 ☎06(2)23776
Oプレジール・ミア 中山手1 ☎06(2)7125
Hミア・ドウ 山本通2 ☎06(2)7125
SアルタモダS & H 生田筋 ☎06(3)5570
有有限会社S & H 中山手2 ☎06(2)6611(代)

SHOPPING

秋の色K O B Eで
さわやかにショッピング



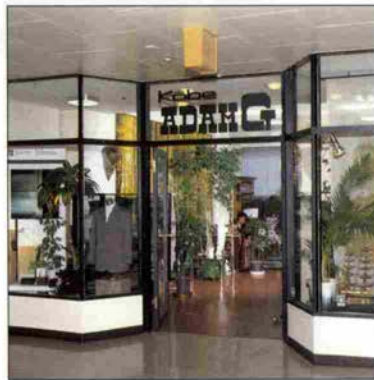
●入っ甲
太田べっ甲店
元町一番街山側 ☎331-61195
街を行くレディの杓元も、季節を先
取りしてさわやかに、そしてしつとり
と……。



●手づくりの心をつたえる
Cascade
本山駅前店 ☎451-8125
カスカード専属マイスターとして、
ベルリンから来日したシモン夫妻。本
場の材料と製法でお届けします。



●画材・額縁
末積製額
トアロード・大丸前 ☎331-1309
お部屋のカーテンを替えて、壁面の
アクセント、ポスターアートで色どりを
変えてみましょう。



●オーダーメイド・紳士服
アダムG (岡田 廉)
神戸国際会館3F ☎231-3575
秋冬物生地が揃いました。
御進物に、仕立券付服地を
利用ください。
TAILOR ADAM G
—Kobe—

SHOPPING

おしゃれの楽しい季節

KOBE発のファッションを……



•ブティック

サンジエル



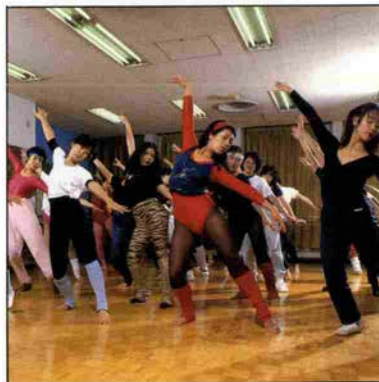
センター街2丁目 ☎331-4358
さりげないシテイ感覚のウェア、マ
ックデヴィッド。ゴードイネイト
の楽しさが魅力のブランドです。



•ファッションブレイス

COL

中央区北長狭通3-12-14 ☎331-2020
大人の気品と感性あふれる、豊富な
品揃えの「コルウ」。本格的な、男っ
ぱいダンディズムをお楽しみ下さい。



•ダンス教室

高木スタジオKOBЕ

三宮センター街西角 ☎331-7997
誘われてDANCINGノジャズダ
ンス・ステイジヤズダンス・エアロ
ビクス等。お気軽にご見学下さい。



•JUST HAVE A LOVELY TIME

ローズガーデン

北野異人館通り ☎222-1140
小粋で洒落たショップが19店。レン
ガ造りのファッションビルは、今や神
戸・北野のファッションのメッカです。

mazda

ピースフル・コンフォート

包みこむ安堵感

新型ルーチェ誕生

私の、ファースト・レディに。



神戸マツダモータース

本社 / 神戸市兵庫区東柳原町3番10号 (〒652)
TEL (078) 671-5011

マツダオート兵庫

本社 / 神戸市兵庫区湊町3丁目2番3号 (〒652)
TEL (078) 576-5061

Les COLLECTION PEARL et MODE'86

ベーシックなファッションに
パールをさりげなく飾りたい…



上段左より、モアレ柄のパンツスーツ、1枚仕立ての7分コート、アンゴラジャージのツーピース、下段左よりウールスーツ、フランスベルベットのカクテルスーツ、ウールスーツ、右、シルクのカクテルドレスとロングジャケット。真珠はすべて木下真珠のオリジナル商品。



木下真珠の山本妙さん(右)と、魔女の大里最世子さん。

異人館通にもファッションの秋が来た。九月十六日、カサブランカクラブで開かれた「レ・コレクション・パール・エ・モード'86」は、異人館倶楽部の三階にある「グティック魔女」のモデルリスト大里最世子さんと、北野坂の「木下真珠」の山本妙さんと二人のジョインによるショーは北野「夢モード」ステイヴのピアノと Hammond の曲が流れ、五人のモデルが次々とスポーティなタッチの皮のパンツ

とビッグなブルゾンや、さりげないシテイ感覚のタイトなスーツ、そしてアダルトなレトロ調の優雅なパーティードレスなど56点に、七色に変化するパールデザインをコーディネート。マダム最世子は、「磨きあげたヘルシイなボディに、カッティングと、素材のよさで出来た服を着る人の個性で着るのが今年のファッション」パールの山本妙は「真珠も冠婚葬祭だけでなく、黒真珠や、ブルー、ピンク、紫とカラフルな真珠もありファッションブルに変化を楽しんでほしい」と、おしゃやかな女達に語りかけた。

■フティック魔女/北野町四ノノ十二
■異人館倶楽部3F ☎03(22)1773
■木下真珠/山本通一ノ七〇七(北野坂パール通り) ☎03(2)3170



パーティ、予約受付、飲みもの達3,000円より
夜のお食事は予約の上、お越し下さいませよう。

レストラン サルーテ
RESTAURANT SALUTE

風見鶏の館を西へ50m・白い異人館の山側
14-13, 3chome kitano-cho chuo-ku kobe-city
phone BF/(078)251-9060 毎月曜休 AM11:00~PM9:00



生け花で知り合った佐々木美佐子さん(右)と佐野まゆみさん。佐々木さんのご主人が常連のこの店には、スタッフとマスターの気さくさに魅かれてよく来るそうです。

JAZZ & WHISKY HOUSE
SATIN DOLL

中央区中山手通1 富士産業ビル1F
☎ 242-0100 無休



「味」とシャレた雰囲気に向向をこらしました。行き届いたサービスと落ちついたムードをぜひお楽しみください。



あこや亭
ボーアイブラザ店

中央区港島中町6丁目14番(ポートピアプラザH棟)
☎ 303-3232
営業時間：午前11:30~午後10:00まで 年中無休



シックムード漂う落ちついた店内で飲むサイフォン
コーヒー。くつろぎの中に深い味わいが楽しめます。

LASSERE
カフェ ド ラセル

中央区雲井通7丁目 神戸新聞会館1F
☎ 221-8155

あの伊勢エビ屋が 北野に移転OPEN!



神戸市中央区北野町4丁目6-8
TEL. (078) 222-0766 〒650

■メニュー■

カリブランチ ¥1,650

ディナーセット ¥3,300

(単品)

オマール(アメリカンロブスター)

ストーンクラブ 他

- 2階...40名様迄パーティ承ります。
- 専用駐車場あり。

営業時間 AM10:00~PM10:00
年中無休

